第３学年　道徳科学習指導案

１　主題名　　がんばりが続くには
　内容項目　　Ａ－５【希望と勇気、努力と強い意志】
　教材名　　うまくなりたいけれど（自作教材）

２　主題について

（１）主題設定の理由

新学習指導要領では、内容項目Ａで「自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させること」に関する項目である。児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには自分自身を高めていこうとする意欲が大切である。そのために自分に適した目標を立て、その目標に向かって、勇気をもって困難や失敗を乗り越え、努力する態度が重要である。この項目は、低学年で、自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと、中学年で、自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くことを目標としている。そして高学年で、より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやりぬくことを目標として発展させている。

この時期の児童は、勉強や運動だけでなく、様々なことに興味・関心を広げ、活動的になる。自分の好きなことに対しては、自ら目標を立て、計画的に努力することができる。しかし、自分が辛いことや苦しいことがあるとくじけてしまい、それが周囲に与える影響も考えないまま、自分のその場の感情であきらめてしまうことが少なくない。しかし、「できるようになりたい」という希望ももっており、そのために努力することの大切さも知っている。

そこで、あきらめずに努力し続けることの大切さや、人間の弱さをただ理解するだけでなく、どうすれば乗り越え、前向きに取り組めるのか、がんばりを続けるためにはどんな心が大切なのかを考える必要がある。また、目標を実現するためには、自分自身の努力だけではなく、家族や友達、教師など、周りの人の励ましや称賛があることに気付かせたい。そうして、粘り強く努力した経験や成功体験を増やすことで、「わたしはできない」ではなく、「わたしはきっとできる」という気持ちを育んでいきたいと考え、本主題を設定した。

（２）教材について

本教材「うまくなりたいけれど」は、グループの話し合いを行うことで、問題の解決の糸口を考えていく自作教材である。この期の児童が立てた目標に対し、途中であきらめてしまう要因として考えられるのは、①「周囲の人から責められて（悪口を言われて）嫌になり、がんばることをあきらめる」②「どんなにがんばってもできない自分にあきらめる」の２つが主に挙げられる。よって本教材は、①『あきらのできごと』と②『さと子のできごと』の主人公ががんばることをあきらめてしまう２話をもとに、多角的・多面的に考えることによって「どんな状況でも目標に向かってあきらめないで努力すること」の大切さに気付かせたい。

また、本時では２話を同時に扱うため、児童には、「今の自分により近い登場人物」の話を選択させ、問題の解決にあたる。そうすることで、より自分事として、主人公の弱い気持ちにも共感しながら、また、主人公を取り巻く人物にも目を向けながら、話し合うだろうと思われる。また、解決策を考えることにとどまらず、「がんばりを続けるためにどんな心が必要でしょう。」と問うことで、がんばる行為ではなく、それを支える心について考える授業を展開したい。

3　研究の重点との関連

視点①　問題解決的な学習に適した教材の選定

本教材が問題解決的な学習に適しているかどうか、次の点から判断した。

①教材の登場人物が本学級の児童と同世代であること。
②教材の話の内容が児童にとって身近で自我関与しやすい内容であること。
③教材の中の問題場面で悩んだり、葛藤したりする場面があること。
④教材を読んで児童が解決策を構想でき、話し合い活動では、多様な解決策が考えられる内容であること。
⑤本時のねらいを達成できる内容であること。

本教材は、「うまくなりたいけれど」は、授業者が登場人物や話の内容など、学級の実態を考え、３年生のこの期の児童目線で書いた自作教材である（①)。また、内容も、大縄大会に向けての練習の出来事、音楽発表会に向けてのリコーダーの練習の出来事という、学校行事に関連した内容ということもあり、児童にとって普段の生活に置き換えて考えることができる馴染みやすい内容であると言える（②)。また、教材文は短く、端的に書くことで、児童が問題場面を見つけやすいような展開で話を構成している（③)。登場人物は、あきらの出来事では、あきら（あきらめる人)、ゆうか（あきらめないでがんばり続ける人)。さと子の出来事では、さと子（あきらめる人）姉や友達（励まし、支える人）が存在し、それぞれの立場の思いを考えながら、多様な解決策を考えることができるだろうと考える（④)。

上記の視点（①～④）を考慮し教材を作成した。本教材を扱い、問題解決的な学習を展開することで、児童の自然な思考の流れでねらいとする価値にせまり、日々の生活につながるようにしていきたい。⑤については、学習後のワークシートから見取っていきたい。

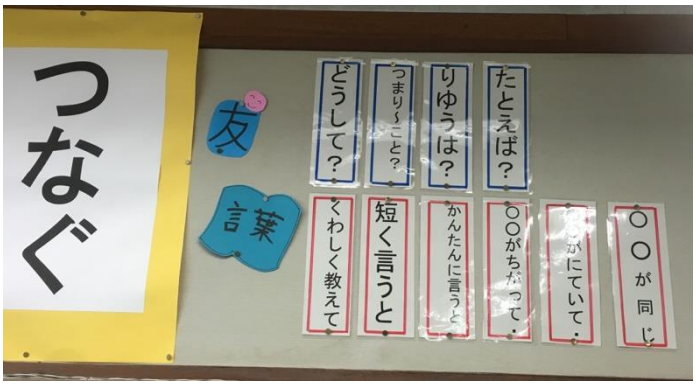
視点②　価値について考えを深めるための話合い活動の工夫

深まりのある話し合いとは、教材の中から児童自らが道徳的問題を見つけ、それに対し自分の考えをもち、話合い活動を通して多様な考えに共感しながら、自分の考えを再思考できることだと考える。

○解決策を視覚的に整理する短冊の活用

児童が主体的に話し合うためには、自分の考えをもつことが大前提である。よって本時は、児童が自分の考え「どうすればよいか」「その理由」を短冊に書く。全員が書けたことを確認し、その短冊をもとに自分の考えを話すようにする。互いの考えが視覚的に残り、見えることは、児童にとって自分の考えと比べたり、新たな考えに気付いたりする助けになる。また、短冊をホワイトボード上で操作することで、グループとしての考えを整理しやすく、思考を残すことができる。そして、そのホワイトボードをもとに全体の場で話し合うことで、一目見て全てのグループの考えがわかり、自分達の考えと比較しながら、また、２つの教材の共通点や相違点を明らかにしながら話し合うことができるだろうと考える。

○話を「つなぐ」ための掲示物の活用（日常的な取組）



グループでの話合いの際、児童が主体的に取り組み、道徳的価値について真剣に考える話合いにするためには、児童自身で話をつなぐ必要がある。よって、本学級では学級目標を「つなぐ」とし、そのために、①相手の顔を見て最後まで聞く②「いいね」「なるほど」など共感的に聞く③自分の考えとの共通点・相違点を見つけながら聞く④「つなぎ言葉」を使って、相手に感想を述べたり、質問をしたりするという４つの視点をもち、話合い活動に取り組んでいる。この日常的な取組を本時のグループ・全体での話合いに生かし、多様な考えに共感しながら、自分の考えを再思考できるように促していきたい。

４　本時の指導

（１）ねらい

自分でやろうと決めたことは、粘り強くやりぬこうとする心情を育てる。

（２）展開

展開	学習活動と主な発問	指導の手立て　◇評価
導入 ３分	１　アンケート結果をもとに道徳的価値への問題意識をもつ。 ○アンケート結果から気になることありますか。 ・がんばったらうれしい気持ちになることがわかっているのに、あきらめている人が多い。 ・あきらめた理由が同じだね。みんな似たような経験をしているんだね。	・諦めた経験から理由を考えさせる中で、教師が「このままの自分でいいのかな」と投げかけることで、児童自ら問いをもち、本時の学習に主体的に考えることができるようにする。
	目標にむかってがんばりを続けるためには、どのような心が必要なのだろう。	
展開前段 10分	２　教材の内容を振り返り、道徳的価値について理解を深める。 ○あきらさんとさと子さんは、なぜがんばることをあきらめてしまったのでしょう。 あきら ・とぶことができないから周りよりやる気がさがるのもわかるな。 ・友達に責められたら嫌になるのは当たり前だよ。 ・ゆうかさんのを見て、「ぼくも本当はがんばりたいのに」とうらやましい気持ちになったのではないかな。	・挿絵とキーワードとなる言葉（登場人物、目標、あきらめた発言）を黒板に残すことで、児童が教材の内容を理解できるようにする。 ・登場人物の弱い心情にも共感しながらも再度、「このままでいいのかな」と問うことで、道徳的価値の理解につなげたい。

	さと子 ・どんなにがんばってもうまくいかないときは、くじけそうになるよ。 ・まわりの友達と比べてしまい、自信がなくなってしまったのではないかな。 ・友達が優しいと、「がんばる」気持ちより、「ごめんなさい」の気持ちの方が大きくなったのではないかな。	
展開後段27分	◎あきらとさと子はどうしたら目標に向かってやり遂げられるでしょう。 ・自分の考え（表：どうする、裏：その理由）を短冊に書く。 ・個人の短冊をもとに、グループでよりよい解決方法を話合い、ホワイトボードに書く。 あきら ・ゆうかさんに「なぜ、がんばれるのか」話を聞くといいと思う。理由は、ゆうかさんの気持ちを聞くことで、イライラした自分ではだめなことに気付き、また、がんばろうと思えるのではないか。 （身近に同じ目標をもち、あきらめないでがんばる友達がいる。自分と正反対。） さと子 ・お姉さんに、「できるようになりたいのに、うまくできない」苦しい気持ちを相談したらいいと思う。理由は、さと子さんの目標であるお姉さんがどうしてできるようになったかを聞くことで、さと子さんは「自分もできる」という気持ちになれるかもしれないと思うから。（自分が目標としている人の言葉は自信になる。強い気持ちがもてる。）	・自分が「あきら」と「さと子」のどちらに近いかを考えて選択させ、同じ人物を選択した同士で３～４人のグループを編成し、話し合う。立場を自己選択することで、自分の経験を想起し、考え、話し合うことができるようにする。 【グループでの話合い】 ・全員が短冊に考えを書いたことを確認し、話し合う。 ・話し手は、短冊を提示して話す。聴き手は、自分の考えとの共通点・相違点を考えながら聴く。同じでも理由が異なることもあるので、最後まで聴く。 ・共感的な態度は、相手の考えに同意する姿だけではなく、「なぜ」「どうして」「くわしく教えて」など、興味を示しながら聴くことも含まれる。グループとしての考えをホワイトボードに書く。
	・各グループのホワイトボードをもとに思ったことや考えたことを全体で話し合う。	【全体での話合い】 ・各グループの考えを書いたボードを一斉に張り出し、全体で確認をする。同じ考えなら理由を聴き合ったり、異なる考えなら互いに質問をしたりし、思ったことや考えたことを話し合う。

		・「あなたがゆうかさんだったら？」「お姉さんだったら？」と他の人物の立場に立って考えることで、目標を実現させるためには、自分の努力だけではなく、周囲の人の励ましや称賛があることに気付けるようにする。
終末 5分	○がんばりを続けるためにどんな心が必要でしょう。 ・あきらめないで最後まで努力する心。 ・「自分はできる」という強い気持ち。 ・同じ目標をもつ友達といっしょにがんばる心。 3　本時の学習の振り返りをする。 ○自分が立てた目標をあきらめそうになったとき、これからどうしていきたいですか。	・板書を振り返りながら、どんな考えも共感的に、聴き合い活動に取り組むことができるようにする。 ・あきらめてしまうときには、様々な理由があるが、それを乗り越える心が大切であることに気付かせたい。 ・導入で扱ったアンケートの自分と学習後の自分との変容を振り返りの視点とし、自分事として振り返ることができるようにする。 ◇自分でやろうと決めたことは、粘り強くやりぬこうとする気持ちになったか。（ワークシート）

うまくなりたいけれど

名前（　　）

1　今のあなたは、　「あきら」　と　「さと子」のどちらに近いですか。

だれ

2　「あきら」と「さと子」は、どうしたら目ひょうに向かってやりとげられるでしょう。
（カードに書く）

3　今日の学習をふり返りましょう。

今までのわたしは、

……

……

今日の学習で、

……

……

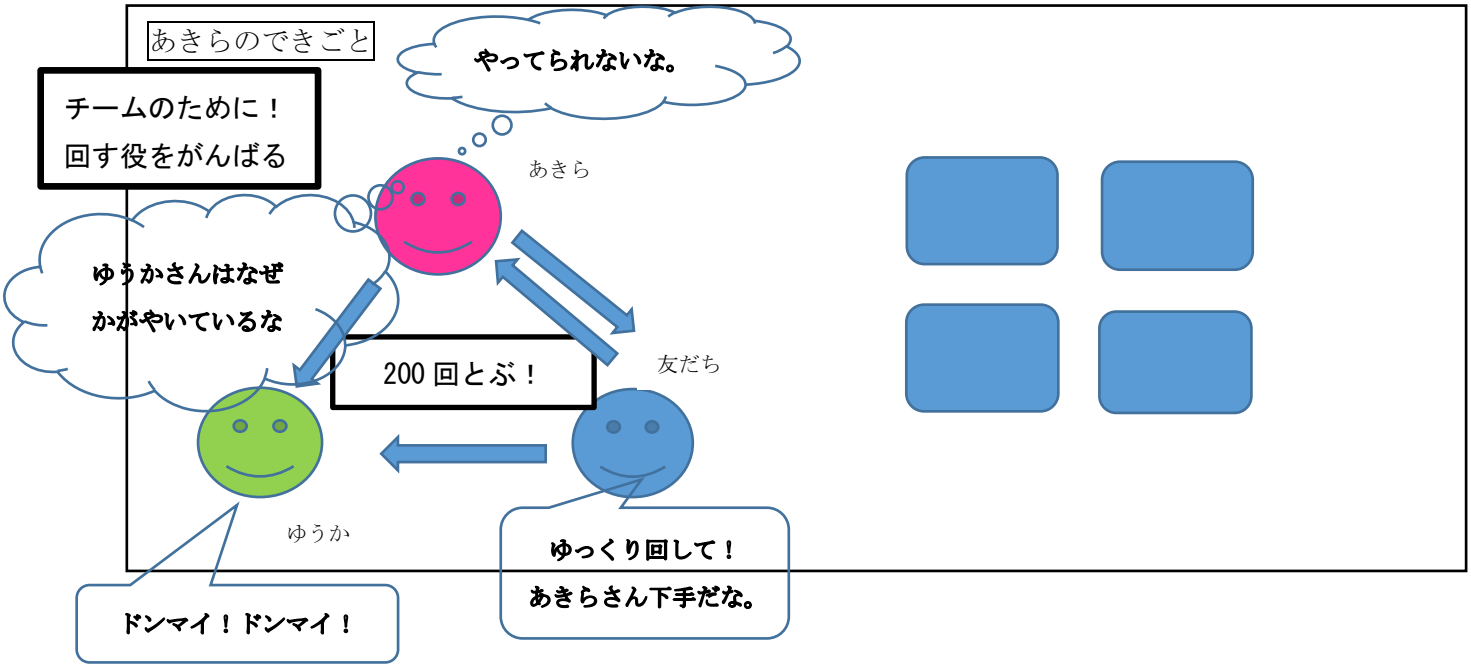
これからは、

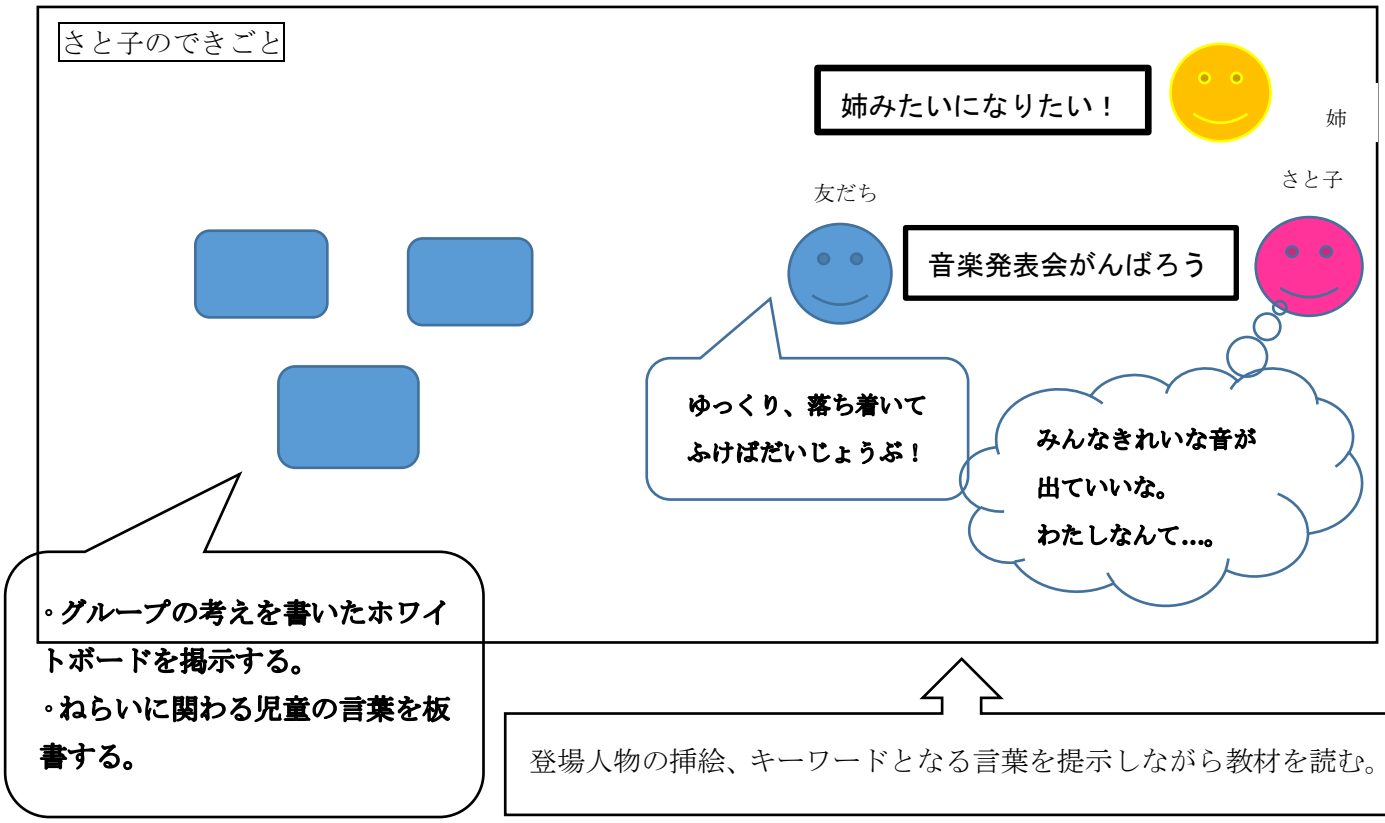
……

板書計画（黒板大２個、小１個使用）

大黒板

目ひょうに向かってがんばりをつづけるためには、どのような心がひつようなのだろう。





◦グループの考えを書いたホワイトボードを掲示する。
◦ねらいに関わる児童の言葉を板書する。

登場人物の挿絵、キーワードとなる言葉を提示しながら教材を読む。

小黒板

・本時のねらいに対することを板書する。

・あきらめないで最後まで努力する心。
・「自分はできる」という強い心。
・同じ目標をもつ友達といっしょにがんばる心。

うまくなりたいけれど

〈あきらのできごと〉

百十三、百十四、百十五、百十六・・・。
「あっ、引っかかった。これじゃあ、目ひょうの二百回はほど遠いよ。」

あきらは足をけがしていた。そのため、今年の学級対こう大なわ大会に出場することができない。あきらは毎年大なわ大会をとても楽しみにしていた。とくに今年は、「二百回」を目ひょうに、練習前からみんながかなりもり上がっていたからだ。しかし、とぶことができないあきらは「チームのために」と、なわを回す役を同じクラスのゆうかと自ら引き受けることを決めた。

しかし、いざ練習が始まると、
「あきらさん、ゆうかさん、とぶのはうまいのに、回すのはあまり上手じゃないね。」
という声がまわりから上がる。それなのにゆうかは、
「ドンマイ、ドンマイ。また、ちょうせんだよ。」
とひっ死に大きな声を出す。しかし、あきらにはわからない。
（こんな役、引き受けなければよかった。みんなすき勝手言っていやになるな。それなのにどうしてゆうかさんはあんなにむちゅうになれるんだ。もう、こんな役やめてやる。）
でも、なぜかあきらの心は、すっきりしないままだった。

〈さと子のできごと〉

「今年の音楽発表会は、三年生全員でリコーダーをえんそうします。」
先生がそうおっしゃった。まわりから明るい声が上がる中、さと子はひとり下を向いた。

さと子はリコーダーが苦手で、練習があまりすきではない。しかし、はじめからそう思っていたわけではない。さと子には一つ年上の姉がいる。姉が家で楽しそうにリコーダーをふくすがたを見て、「わたしも姉のようになりたい」とずっと楽しみにしていたのである。しかし、何度練習しても思うように指が動かず、姉や友だちのような音が出ないのである。

発表会までのこり二週間となり、みんな練習に気合いが入る。さと子のグループにかぎっては、休み時間も練習をすることになった。
「さと子さんに合わせてゆっくりやってみよう。」
「指でしっかりあなをふさいで。落ち着いてやれば大じょうぶ。」
とみんながやさしくアドバイスをしてくれた。でも、やっぱりうまくいかない。
（みんなきれいな音が出ていいな。わたしなんて…。）
さと子はだんだんはずかしくなった。そしてさと子は、次の日から練習に行くのをやめてしまった。